



TITLE:

各地よりのたより

AUTHOR(S):

CITATION:

各地よりのたより. 天界 1940, 20(227): 159-160

ISSUE DATE:

1940-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167949>

RIGHT:

 各地よりのたより

紀伊支部 一月通信

- 1) 一月19日 19時、高商天文同好會の山本靜雄、新谷雅信君と小生方に會合、紀伊支部一月例會開催に附打合せり。22時終了す。(粉河は二月へ延期)
- 2) 一月20日 19時より紀伊支部例會を和高商學生消費組合二階にて開催。中村鏡 20cm 赤道儀を背景に、一同記念撮影す。その後、各遊星、恒星、星圖等を、小嶺、山本、阪田 3 氏指導の下に、觀望せり。

19時40分より20時40分迄「流星の觀測とその意義」と題する小嶺支部長の講演あり。尙つづいて高城武夫氏の「太陽機關車」の講演ある筈なりしも、氏の缺席のため、中止せられたり。

その後、22時近く迄、座談會開催散會す。

二月例會は、二月17日(土)、粉河町阪田氏邸にて開催の豫定。

- 3) 一月21日(日) 12時より野村氏方にて、山本靜雄氏、門洋一氏、島田普村氏、野村秋馬の4名、小嶺支部長を迎へて座談會開催す。19時散會、後、小生と山本君と2人小嶺氏を東和歌山驛へ見送れり。
- 4) 一月23日 19時より日方一好師範附屬小學校にて、中村正壽先生司會の下に、六年生男子一部及教生の方々のため觀望會開催。島田普村氏の「星の話」あり。後、Busch 7.5 cm 屈折、五藤 5.8 cm 屈折、中村 9 cm 反射の3臺にて、月、土星、木星等を觀望、22時散會す。盛會なりき。縣下にてこれ程望遠鏡の集りたる例はなし。(一月30日、和薩赤院にて 秋馬記)

伊達課長より

拜復(上略)

さて御來示の月面課長の後任の件、非常に遺憾乍ら、目下小生の知れる範圍では適當な御人が無いのを残念に存じます。

同じ課長であるからには、A氏の如く名目付けでなく、何か仕事をされる方と思ひますと、一寸適當な方は無いと存じます。

五藤光學に前にゐた小島修介氏は月面觀測とスケッチに興味を持つておられましたが、御自身の器械の無いのと、目下某學校に在學中の理由で適任でなく、京都の坂井氏も月面は第1の object らしいですが、器械が小さいのと、目下多忙の爲か?觀測をやつておられないのとで、御すゝめは致し兼ねます。

例の火星の渡邊恒夫氏が今回召集解除になり、目下、京都某會社に勤めてお

られて、同氏が観測にカムバック下されば最適任なのですが、同氏の話では當分不可能との事ですので、之も駄目といふ様な次第で、他に月面に特に興味を有つておられる方は無い様です。

大體、日本には英國の如く遊星や月の面を永續的に観測すると云ふ人の無いのは頗る遺憾に存じます。小生も月面には人一倍興味を有つており、Goodacre 氏の様な人が日本に居られたらと常に思つて居ます。私としましては、遊星面の方を木邊氏が若しやつて下さつたら、月面の方も手をつけたいと思つて居ますが、木邊氏も段々御多忙、小生もいよ々々忙がしく、且つ責任も重くなりますので、天文の方の仕事も、恐らく今後充分な事は出来ないかと遺憾に思つており、豫め御詫び致しておきます。かく申す小生自身が、適任者があれば遊星面課長を辭さしていただき度いと存じておる位でございます。

26種反射も遊星と月面の爲に、26c/m の口径を撰びましたのですが、充分活用出来ぬ内に、心ならずも手を引かざるを得なくなりつゝある事は返す々々も残念で、先生の御知遇に對しても、御恩返しが出来ず、残念至極で御座います。兎に角餘暇の許します限り、遊星と取組をしております。

大變脱線致しましたが、小生も月面は好きで居乍ら、御世話出来ぬ點、惡しからず御寛容下さいませ。目下火星観測の整理を(餘暇を見て)やりつゝありますが、十二月中は多忙を極め、何も出来ず、一月は前半は來客其他で暇なく、後半は棚卸しの爲これ迄急がしく、二月になりましたら暇もある事と存じますから、火星原稿次號は少しにしまして、二月にユツクリ整理して、寫眞等も其の時、作り度いと思つております。第二回分は二三日中に御送り申し上げます。

一月27日

伊達英太郎

編輯後記 どうした星のめぐり合はせか？ 此の頃編輯室には良い原稿が山積しつゝある。今、手許にあるものをまとめると、僅に200頁の雑誌が出来上りさうだ。S. I. 氏、伊達氏の續稿の外に、後藤氏、二葉氏、水野氏、小澤氏、中村氏のもの、それから海外の學者の翻譯も五つ六つ。★南米へ日食観測に行く準備のため、吾々もそろ々忙しくなる。器械は大體見當が付いたが、次は人員と資金との問題である。こんどは我が東亞天文協會の國際事業として行くので(政府や官吏學者は此の際は外國などに出かけない方が國策上に宜しい)會員の中から優秀な人物を今物色中である。日本を出發するのは七月頃、歸朝するのは年末になる見込み。(X. Y. Z 記)